

会議名	(社)農林水産情報協会(平成17年度第2回)第474回技術情報交流セミナー グローバル時代における人獣共通感染症・動物疾病の情報提供
開催日時	平成17年6月24日(金) 14:00~16:00
開催場所	製粉会館6階会議室(東京都中央区日本橋兜町)
主催者	(社)農林水産情報協会
参加人数(概数)	約40名
1. 会議の概要 (500~1,000字程度または議事内容の資料添付)	<p>調査事項; 「グローバル時代における人獣共通感染症・動物疾病の情報提供」 講師; 農林水産情報協会 情報交流部長 井上 忠恕 氏 グローバル時代における家畜、ペット、野生動物などを媒介とする人獣共通感染症や動物疾病の現状とその防疫に関連して、特にインターネットによる情報収集やその発信について紹介された。</p> <p>演者は家畜衛生試験場、動物衛生研究所を経て現職にあり、この間のJICA海外(ウルグアイ)勤務とその後の国際交流、家衛試・動衛研HPの立ち上げと運営、BSE等一連のパニック対応における豊富な経験と実績を基に、裏話をも交えた面白く、情報提供とくにHPの立ち上げ運営について大変興味深く、参考になる話をされた。</p> <p>(当日の資料2点添付、参考資料のほうが必読)</p> <p>(1) BSE発生に英国と日本国内のパニック BSEについては1990年代からすでに情報協会機関紙「研究ジャーナル」の特集で取り上げ、家衛試・動衛研HPからも情報発信を行っていたが、騒動発生時のアクセス、マスコミの反応は凄まじいものであった。</p> <p>(2) 日本で92年ぶりの口蹄疫の発生と東南アジア、南米の取り組み 76日間のエピソード。中国呉副首相キャンセル帰国の真相は中国国内の口蹄疫の発生?。ウルグアイはガットで上手に立ち回った。ワクチン接種を続けても清浄国。中南米では軍事政権が口蹄疫制圧に貢献。韓国でも軍隊出動。</p> <p>(3) 新型肺炎SARSの発生と多施設共同研究 発端は中国国内からの1通のメール。ProMEDによる情報の発信と国際協力・共同研究。</p> <p>(4) 高病原性インフルエンザ79年ぶりに発生 日本での研究史(1920年代)。現在でも東南アジアは要注意。</p>

<p>2．今後の研究開発分野として重要と思われる関連発表課題・</p>	
<p>3．その他の発表課題で関心のあったもの</p>	
<p>4．今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等</p>	<p>当協会において現在、HPの改革、メールマガジン立ち上げの作業が進められているが、この件についての認識も不十分で、担当部長・担当者任せで協会内の協力体制が確立されておらず、特に各部とくに部長達の協力が十分に得られていないことを指摘したい。</p> <p>メールマガジンを立ち上げ運営していこうとするならば、それなりの認識と態勢が不可欠である。当協会でキーパーソンをはじめとする専従体制をとることについて、現在は不可能であろう。</p> <p>当協会のメールマガジンの内容とそれを立ち上げ運営する事業の重要度が不鮮明で理解できないところもあるが、このままでは目的達成は不可能で、外部からの批判を受けることも覚悟しなければならないことが危惧される。</p> <p><b>以上のことについて、警告も含めて報告する。</b></p>
<p>5．報告者</p>	<p>針生 程吉</p>